
幸せのしっぽ。

melmo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
幸せのしっぽ。

【Nコード】
N0168W

【作者名】
memo

【あらすじ】
舞台、大阪。

あみな：主人公

亮ちゃん：かっこいいひと

治会・読書会のこと

ウシダ：大学生

まつきー：社会人

直志：小説喫茶店長

崇：インテリ。考古学者になりたい人

しつぽがみえた？

いつもと同じ8時10分のバスに乗って

一番後ろの席に座って

大好きな作家の本を読んで

めんどくさい学校に行く。

勉強は嫌いじゃない

けど、

わずらわしい友達と居る時間が嫌い。

楽しくもないのに、無理してテンションを上げて

この人たちを笑わせないといけないって思ってしまう自分が嫌い。

根っこは暗いくせに、誰にもそれを気づかれないように必死で隠して

それでも本当は凄く寂しい部分に気づいて欲しいって思っている自

分も嫌い。

嫌い嫌いばかりで、なんだか情けないけど、

それがあたしなのかな。なんて思う。

だけど今日の放課後は、気の合う治会のメンバーと会えるから楽しみ。
み。

直志くんは何を読んだらう？

ウシダは試合うまくいったのかな？

まっきーは今日も仕事の愚痴を言うだらうか？

私たちいつから本以外の話をするようになったらう？

ひよんなことから、まったく関係のない私たちは繋がってるんだ。

世界の、日本の、大阪の片隅で、ちっさいちっさい出会いだけど、

私にとっては居場所だって言える。

うん、だから今日も、嫌いな人たちの中でも、がんばる。

大きな音が鳴って、バスが停まった。
ヘッドフォンをはずして様子を伺う。

なんだろう？珍しいな。こんなところで停まるなんて。

そう思っていると、運転手さんのアナウンスで

「エンストみたいで・・・とりあえず、乗客の皆さん一旦降りてもらえますか？」

と告げられた。

エンスト？ナニソレ？な私は、まあ急ぐこともなく座っていた。

「代わりのバスとか来るんですかね？」と隣に座っていた方に突然聞かれる。

いや、私に聞かれても。バス会社の回し者でもあるまいし、なんてくだらないことを考えながら

「どーでしょうねえ。」とつぶやく。

よく見ると男前な人ですこしドキツとする。いつも乗ってくる人だけど、近くで見るとカツコイイ。

目が悪いから良く見えてなかったけど。

こんな人が隣に座ってたのかと思うと、なんで今日に限ってこんなことにとか思ってしまった。

とりあえず彼の後ろに続いて一旦バスを降りる。

急いでいる人たちが、何やらさわがしく会社に連絡を取る。

性質の悪い人は、運転手さんに詰め寄っている。仕方ないやん、そんなこと言っちゃって。

私は急ぐことから完全に離脱している。急ぎたくない。というかこ
うゆうどうにもならない状況を楽しむ癖が小さいときからある。ん
ー。運転手さん、代替とか、そんなしなくなっ
ていいからね。ゆっ
くりいこうよ。

私も社会人になったら、あーやって会社に行くことに熱くなれんのかな？

むしろ今と同じで喜んでるんじゃないのかな。

このまま何も解決しませんよーにって祈ってるかも。

あー、かたじけない、私など居ないほうがいいな！。

「なあなあいつつと同じバス乗ってるやんな？」

色々考えてたら急にまたかつこいい男が話しかけてきた。

「え？」

「いつつも後ろの席すわってるやろ？」

「あー、そうですね」

「後ろ好きなん？」

「はい。なんか座ってますね。」

「ええなあ。俺座ろうとしても座られてるときあるから無理やねん。」

「はあ。」

「はあ。」

なんだか人懐っこいひとだな。

「自分急いでるん？」

「いいえ、まったく」

「そんな感じやな。俺らだけやで、焦ってへんの。」

「ああ。そうですね。」

「タクシーよぼか？どこまで行きたいん？」

「いや、別にいいんです、急いでないから。」

「ふーん。ほんならまあおいでや。」

「え？」

「暇なんやろ？」

「暇ではないですけど。」

「えーやん。どーせ情性の日々を送って自己陶醉してる大学生やろ？」

「ちょっと相手してや、おータクシー来た。」

「え？」

「運転手さん、まあゆっくり頑張りや。あんたのせいちゃうねんか」

「らな。」

何やこの人、と本気で思う。でも悪い気はしないのは、やっぱり顔がいいからかな。

まあいつも同じバスに乗ってる人だ。悪い人じゃないはず。すこしだけ、冒険してみよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0168w/>

幸せのしっぽ。

2011年10月8日23時55分発行